

今回は、全国高校生マイプロジェクトアワードの報告です。

◇ マイプロジェクトアワード（略称：マイプロ）とは？

マイプロは、実践型探究活動のアワードとしては、全国最大規模を誇るイベントです（主催：NPO法人カタリバ、文部科学省、岐阜県教育委員会等が後援）。2023年度は、全国から2600チームがエントリーし、そのうち60%が地域サミット（動画審査）に進みました。さらに地域サミットを通じ100チームが選ばれ、地域サミット advanced（オンライン発表会）へと進み、全国サミット出場48チームが決定しました。全国サミットは、3月23・24日、東京で開催されます。本校からは、「ほらどのめぐみ」チームが、岐阜県代表として参加予定です。

◇ 関高校の取り組みと成績

今年度、本校は初めてマイプロにチャレンジしました。計6チームが参加し、以下のような取り組みを行い、成績を収めました。

- ほらどのめぐみ 関市特産のキウイを軸とした地域振興の推進
岐阜県代表として全国サミットへの出場が決定（3/23・24）
- 鹿っ子プロジェクト 郡上市特産の鹿肉を使った地域振興、環境保全の推進
全国ベスト100に選考され、地域サミット advanced に出場
- SEKI 米粉倶楽部 関市特産ハツシモの米粉を使った地産地消の推進
地域サミット特別賞を受賞
- まるそらドーナツ 関市特産のサトイモを使った「高校生のドーナツ屋さん」
- 中学生模擬国連会議 地域の中高生がグローバル課題に挑むイベント
- SENGOKU プロジェクト 地域の文化遺産を調査・活用するプロジェクト

◇ ほらどのめぐみへの評価 ～探究サイクルのスパイラル的発展～

先輩たちの想いを引き継いで活動を発展させるだけでなく、プロジェクトの発端となった地元産品の本来に立ち返ることができる。それは自分たちの活動を振り返る際に、原点に立ち返って活動を問い直すといえる。また、アクションを繰り返すなかで、新たな課題に気づき、更に取り組みを前進できている点は、探究サイクルをスパイラル的に発展できており素晴らしいと感じた。後継者不足解決のためにツアーを行っていくことは対話質疑でも理解できたが、後継者育成が喫緊の課題である場合は、短期的な打ち手も検討する必要があるかも知れない。 写真：岐阜地域サミットの様子、マイプロ HP より



◇ まちへ飛び出すフロントランナーとマイプロ参加



本校では、まちで活動する生徒有志をフロントランナーと呼び、その活動を支援しています。例年、フロントランナーとして活動する生徒は全体の1～2割です。今年度は1年次生の23%、2年次生の40%が活動に加わっています。全国の高校生と切磋琢磨できるマイプロは、フロントランナーとして活躍する関高生にとって、格好の学びの場と言えます。次年度以降も、マイプロへの参加を奨励し支援する予定です。

写真：卒業生・小森山太さんを囲むフロントランナーの勉強会